

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2872201138		
法人名	医療法人社団順心会		
事業所名	グループホームしらぎくの家		
所在地	兵庫県加古川市野口町字西ノ大町 (電話)079-430-0888		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年9月13日	評価確定日	平成19年11月9日

【情報提供票より】 (19年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤2人, 非常勤5人, 常勤換算5.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	0	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,450円	その他の経費(月額)	11,800円
敷金	有( )円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( )円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	0円	昼食 0円
	夕食	円	おやつ 0円
	または1日当たり 1,500円		

(4) 利用者の概要 (平成19年7月31日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4	要介護2	4		
要介護3	0	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 0歳	最低	79歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団順心会 順心病院
---------	----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺はのどかな田園風景が残る住宅地の中の施設に併設されたホームである。ホームの玄関には季節の花を植え、菜園では野菜を育てる等、ご利用者の心身機能の維持に繋がっている。自然光が差し込む明るい廊下やリビングはご利用者の身体状況や生活状況に合わせ家具やソファの配置に工夫が見られ、個々のペースに合った過ごし方を尊重している。家族訪問の機会も多く、十分コミュニケーションが取れており、面会時にご利用者個々の暮らしぶり・身体的変化を、随時報告をしている。老健と一緒に夏祭り・敬老会などを実施し、トライやるウイーク・ボランティアの受け入を行い、「しらぎく通信」を作成しホーム内の行事の広報活動が行い地域密着型サービスとしての理解と協力を得るよう取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	今年より管理者が変わり昨年の評価結果を活かした質向上には至っていないが管理者・職員は昨年度の評価結果を基に、入居者の安全と家庭的な雰囲気作りに努め、サービスの充実・向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価は、ホームの職員全員で話し合い自己評価票を作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	9月に第1回目の運営推進会議を実施。町内会会長・老人会会長・協力委員・民生委員・利用者家族・利用者代表・市町村職員・白寿会事務長・しらぎく所長・しらぎく職員の参加で会議が持たれ意見交換が行われた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族からの意見・苦情・要望は、面会時・月1回支払いの来訪時に聴取し、職員間で検討・対応している。意見箱も設置し、日常的に家族訪問の機会も多く、十分コミュニケーションが取れており、家族との交流の中で率直な意見が聴ける体制作りが出来ている。契約時に相談窓口説明も行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	老健と一緒に夏祭り・敬老会などを実施し、トライやるウイーク・ボランティアの受け入も行っている。住宅地の中の施設であるが、現在、理解が得にくい状況の中で「しらぎく通信」を作成しホーム内の行事の広報活動が行えるよう取り組んでいる。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療法人全体の理念を基にグループホームとしての運営方針を重要事項に明記しているが、グループホームとしての具体的な目標・方針の明確化が望ましい。		平成18年法改正により地域密着型サービスとして地域との関係性が重視されるようになり、家庭的な環境の基に、地域との交流・役割を深めながらより地域に寄り添った理念の検討が望まれる。理念は実現可能なより具体的なものでケアに行き詰った時に理念に立ち戻り話し合い・検討を重ねてケアの実践に活かせる理念の検討が望ましい。
	2	理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアの実現に向けて職員間で浸透・共有をに向け取り組んでいる。		理念は、言葉で掲げるだけでなく、事あるごとに理念に立ち戻り話し合いを重ねていくことを期待する。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	3	地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設と一緒に夏祭り・敬老会などを実施し、トライやるウィーク・ボランティアの受け入も行っている。住宅地の中の施設であるが、現在、理解が得にくい状況の中で「しらぎく通信」を作成しホーム内の行事の広報活動が行えるよう取り組んでいる。		運営推進委員・町内会の協力への働きかけ・散歩などでの気軽な挨拶・ホーム通信による行事への招待等地道な日々の努力で交流を深めていくことを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今年より管理者が変わり昨年の評価結果を活かした質向上には至っていないが管理者・職員は評価結果を基にサービスの充実・向上に努めている。今回の自己評価は、ホームの職員全員で話し合い自己評価票を作成した。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>9月に第1回目の運営推進会議を実施。町内会会長・老人会会長・協力委員・民生委員・利用者家族・利用者代表・市町村職員・法人事務長・しらぎく所長・しらぎく職員の参加で会議が持たれホームの説明・相互の意見交換が行われた。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在、ホームから市町村との交流・報告・相談は行っていないが、今回の評価結果の報告をきっかけに「しらぎく通信」などを持って挨拶を兼ねて情報提供と共有を図る取り組みを考えている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日常的に家族訪問の機会も多く、十分コミュニケーションが取れており、面会時にご利用者個々の暮らしぶり・身体的変化を、随時連絡・報告をしている。又、「しらぎく通信」を発行し行事報告をしている。緊急時はすみやかな連絡を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見・苦情・要望は、面会時・月1回支払いの来訪時に聴取し、職員間で検討・対応している。意見箱も設置し、日常的な家族との交流の中で率直な意見が聴ける体制作りが出来ている。契約時に相談窓口説明もやっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットである為、ユニットの異動はなく、グループホーム職員としての採用のため、大きな異動はない。なじみの職員が継続して支援できる体制にある。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の施設の研修会へ参加している。外部研修は情報が入った時に案内し、希望者が参加出来るように調整している。グループホーム独自の年間研修計画による研修実施に至っていない。		グループホーム独自の内部研修計画を作成し、計画的に認知症・プライバシー・接遇・感染症・事故予防などの内容を盛り込みホーム全体の職員の質の向上に取り組んでいくことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	加古川・高砂市のグループホームの交流会に参加しているが、現在管理者のみの交流になっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご利用前に所長が訪問し顔見知りになりホームの見学、レクレーションへ参加を経てホーム利用へ至っている。本人の意見・家族の要望に沿ったサービスの提供への配慮を行っている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎食ホームで手作りすることでご利用者から教えてもらうことも多く、利用者・職員が互いに支えあう関係作りが出来ている。開所から5年が経過しADLの低下もあり調理への参加も難しくなってきたが、ご利用者個々の出来ること・出来ないことを把握し支援している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご利用者ひとり一人の望まれる暮らし方を大切にしながら個々のペースに合わせた支援がなされている。思いや考えを伝えられないご利用者に対しては、本人の生活状況を把握し、ひとり一人のペースに沿って話しかけや行動を促していくよう心がけ、個々に合わせた思いや意向の把握に努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各ご利用者の担当が家族の訪問の機会に意見要望を聴き、ケアカンファレンスを通じて個別具体的な介護計画作成している。その後、計画作成責任者が確認後家族に同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月に1回の定期的な評価・見直しを行っている。ご利用者の身体状況・生活面に変化があった時や家族の要望に沿って随時の見直しを実施している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>協力医療機関・歯科・耳鼻科などの受診同行の支援を行っている。また希望があれば個別の買物への同行も行っている。</p>		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の了解のもと、提携病院に受診している。月1回地域の開業医の往診があり、歯科・耳鼻科受診は、職員が同行し受診支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化・終末期への対応については、ご利用者・家族が安心して暮らせるよう医師との話し合いを持ち、体制を検討する取り組みがある。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の声かけ・態度はやさしく、親しみが込められ利用者の尊厳への配慮と温かさが感じられる。個人情報保護・プライバシーへの配慮も実践されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の大まかな日課は決めてあるが、一人ひとりの意向を十分把握した上で日々のその人らしい暮らしを支援している。食事時間・生活風景の中で、利用者がゆったりとした雰囲気の中で思い思いの時間を過ごされている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>彩りや季節感・ご利用者の希望を取り入れた献立をたて、ご利用者と一緒に毎食ホームで手作りをしている。嚥下機能の明らかなものはないか、刻み食など工夫し、職員と共に会話を楽しみながら食卓を囲んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日3名と大まかに決め、体調の観察を行い安全面に気をつけ、ゆったりと入浴できるようにしている。体調や気分により入浴が困難だった方に対して部分浴を取り入れている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気候の良い時期は園芸・菜園、日々の調理の下ごしらえ・おしぼり・洗濯たたみの係りなど自発的に役割が決まっている。日々の楽しみごとの場面を作るために同法人内のデイサービスで実施しているレクレーションの内容を取り入れている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への買物・散歩・ホームセンターへの買物など取り入れ外出支援を実施している。庭やベランダを利用し、できるだけ外気に触れる機会が作れるように配慮している。個別の希望に関しては家族と相談の上実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠が及ぼす影響については理解しているが、ご利用者の状況により玄関・フロアは施錠中である。現在時間帯での開錠を検討している。		広いフロアからは外景が見渡せ閉塞感を感じられないが、ご利用者の状況を見ながら短時間から開錠を試みていくことが望まれる。



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署との避難訓練は定期的を実施している。夜間想定訓練も実施している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスを考え季節感を取り入れた食事作りをしている。各利用者の嗜好や嚥下状態、食事量などを把握し、個別に対応している。個人票で水分・食事摂取量を確認・把握している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームの玄関は季節の花を植え、家庭菜園が楽しめるスペースがある。自然光が差し込む明るい廊下やリビングはご利用者の身体状況や生活状況を検討し、共有空間の家具やソファの配置に工夫が見られる。対面式のキッチンで調理する風景・臭いは五感刺激になっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内には、その人らしい使い慣れた家具や装飾品が置かれ居心地良く過ごせる空間づくりが見られる。</p>		

は、重点項目。